

令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施報告書(3年次)

研究指定校	北海道羅臼高等学校	教育局	根室教育局
-------	-----------	-----	-------

1 研究主題	
地域連携による持続可能なふるさと知床羅臼における人材育成 ～さまざまな地域資源を活用した郷土愛の醸成～	
2 研究実践内容	
月	実施内容
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・水産教室「開級式」(8日) 漁業後継者の育成を目的とした学校設定科目である海洋生物において、第3学年生徒が参加し、開級式を実施した。履修生徒は、自身が「羅臼町を支える産業の担い手」であることを自覚した。 ・水産教室「ダイビング講習」(15日・22日・29日、7月6日) 海洋生物(学校設定科目)において、知床ダイビング企画と連携し、ダイビングライセンスを取得するための知識を学んだ。 ・郷土学習、施設見学(21日) 海洋生物(学校設定科目)において、羅臼町教育委員会の協力のもと、羅臼町の歴史と地域産業の発祥、水産物の育成、養殖、加工方法について学んだ。水産物が商品化される行程において、商品価値にふさわしいもの、商品にならずに処分されるものがある実態を学んだ。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・創作料理プロジェクト「パッケージデザイン」 創作料理プロジェクトのメンバー8人により、羅臼町教育委員会の協力のもと、町内飲食店に羅臼昆布を使ったスイーツのパッケージデザインを提案した。 ・中高一貫による生態系学習(14日) 第3学年生徒が総合的な探究の時間において、斜里町岩尾別台地を巡検し、知床の歴史と自然について理解を深めた。 ・中高一貫「クマ学習」(22日) 第2学年生徒が総合的な探究の時間において、知床財団の職員による「クマ学習」を実施した。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・水産教室「ダイビング講習」(8月18日・24日、9月7日、8日、23日)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋生物(学校設定科目)において、知床ダイビング企画と連携し、ダイビングの技術を学んだ。地域の海中をダイビングすることにより海洋生物の生態を身近に感じることができた。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・水産教室「ブランド化・マーケティング学習」(6日) 海洋生物(学校設定科目)において、本校で開発した創作料理の

	<p>ブランド化について、株式会社ケミカル代表より指導を受け、地元で収穫された魚介類を使った「海鮮丼」を開発した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創作料理プロジェクト「らうす大漁焼き販売実習」(10日) <ul style="list-style-type: none"> 創作料理プロジェクトのメンバー8人により、地域に根ざした町おこし活動として「らうす大漁焼き」を羅臼町の特産物にするため、斜里町知床ネイチャーセンターで販売した。 ・ らうす高校生議会(13日) <ul style="list-style-type: none"> 第2学年生徒が現代社会の授業において、地域の課題解決に向けた提案を羅臼町議会で行った。生徒が議員となり、町長や町役場各担当者とこれからの町づくりの方策を審議した。 ・ 水産教室「鮭に関する実習」(19日) <ul style="list-style-type: none"> 海洋生物(学校設定科目)において、標津サーモン科学館の協力のもと、鮭の採卵・受精を実施した。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産教室「観光・体験プログラム」(9日) <ul style="list-style-type: none"> 海洋生物(学校設定科目)において、羅臼町に観光客を誘致する方法について討論した。 ・ 水産教室「郷土料理実習・加工品作り」(17日) <ul style="list-style-type: none"> 海洋生物(学校設定科目)において、羅臼漁業協同組合女性部の協力のもと、タラ、イカ、ホタテを使った郷土料理の調理実習を実施した。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 羅臼町ユネスコスクール研究発表会(6日) <ul style="list-style-type: none"> 本校の取組が地域の関係機関とどのような体制で行われているかについて、海洋教育、野外観察、郷土料理実習を例に発表した。 ・ 水産教室「閉級式」(8日) <ul style="list-style-type: none"> 海洋生物(学校設定科目)の閉級式及び全校生徒を対象とした記念講演を実施した。元南極観測隊の方より「南極探索から見る地球環境の広大さ」と題して講演をいただいた。 ・ インターンシップ(15日・16日) <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間において、第2学年生徒全員が、羅臼町内の15の事業所においてインターンシップを実施した。 ・ インターンシップ発表会(22日) <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間において、第1学年生徒が参加のもと、第2学年生徒によるインターンシップ発表会を実施した。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第70回海洋教育フォーラムin仙台(31日) <ul style="list-style-type: none"> 野外観察(学校設定科目)履修の代表者1名が、海洋ゴミの調査研究について発表した。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第8回全国海洋サミット参加(11日) <ul style="list-style-type: none"> 野外観察(学校設定科目)履修の代表者1名が、海洋ゴミの減少について提言を行った。

3月	<ul style="list-style-type: none"> ・創作料理プロジェクト「グルメフェア」(23日) 創作料理プロジェクトのメンバー8人により、「らうす大漁焼き」を「菓のツルハ羅臼店」前の駐車場で販売した。 ・生態系学習(10日) 第1学年生徒が総合的な探究の時間において、知床ネイチャーセンターの協力により、ワシの生態系について学習した。
3 地域みらい連携会議の開催内容	
第 1 回	令和2年10月23日(火) 9:30~15:10
出席者	日置様、工藤様、菊池様、田口様 ※海洋教育パイオニアスクールプログラムと合同開催
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の事業について報告 ・今後の事業について協議
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水産教室について <ul style="list-style-type: none"> ・水質調査は他の地域と同様の方法で行い、データの相違を分析する研究が求められる。 ・ダイビング実習において、海洋生物との触れ合いを通して海洋環境の変化について研究してほしい。
第 2 回	令和2年12月6日(日) 9:30~15:40
出席者	安田様、及川様 ※ユネスコスクールと合同開催
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の事業について報告 ・今後の事業について協議
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 水産教室について <ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体や企業を有効に活用し、それぞれのプログラムと効果的にマッチングさせている。 (2) クマ学習について <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産知床の自然保護を訴えるため、地域から世界規模へと発信していく方法を検討してほしい。 (3) 創作料理プロジェクトについて <ul style="list-style-type: none"> ・新たな水産資源の流通について、高校生らしい視点で商品開発のアイデアを出してほしい。

4 研究の成果と課題

(1) 目的の達成状況

- 生徒は学習活動に主体的に取り組み、地域の良さや地域での生活を営むことの意義について理解するとともに、将来、羅臼町を担う人材の育成と町内での雇用の拡大についての理解を深め、地元で活躍する一員であることを、より一層自覚することができた。
- 生徒はディスカッションやプレゼンテーションを通して、聞き手に伝わりやすく、聞き手の興味・関心を引き付ける技法を身に付けた。また、主体的に探究し、昨年度よりも研究の内容が深まった。
- 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有することができた。
- 高齢化や人口減少が進む中において、より豊かな街づくり活動が行えるような方策等、案を具体化させていく必要がある。
- 町内の幼稚園、小・中学校及び高等学校が連携を深め、地域創生に向けた幼稚園から高校まで一貫したキャリア教育を一層充実させる必要がある。

(2) 目標の達成状況

- 羅臼町教育委員会主催の「知床学検定」の全校生徒における受験者の割合が、令和元年度26.3%から令和2年度48%に上昇し、第1学年は全員が受験した。
- 斜里町知床自然センターで「大漁焼き」を販売したところ、前週よりも観光客が20%増加し、観光の推進に貢献できた。
- 地元への定着向上に向けて、就職決定者のうち、地元への就職率が令和元年度の31%から令和2年度は18%に下降しており、特に女子が地元から離れる傾向が強い。

(3) 実践研究の規模

- 海洋生物（学校設定科目）を中心に各教科等が連携し、全校規模で教科等横断的な取組を行った。
- 幼小中高一貫教育による系統的な学びの集大成として、生態系学習及びクマ学習で生徒自らが日頃の疑問を提起し、課題を解決した。

(4) 研究成果の普及

- 毎月、学校だよりを発行し、町内全戸へ計2000部配布することにより、研究内容や成果を広く地域に発信することができた。
- Zoom等を積極的に活用してより多くの方に研究内容を発信し、多面的な意見をいただくことができた。
- らすう高校生議会において、町長や町議に対して高校生の視点から地域の課題解決に向けた提案を行うことができた。

(5) 実践研究内容

- 海洋生物（学校設定科目）履修生徒3名が潜水士の資格取得
- 羅臼昆布と真昆布のグルタミン酸の調査研究
- 羅臼海岸に打ち上げられる海洋ごみの調査研究

(6) 地域みらい連携会議

- 水質調査の方法に関する助言により、目的に合った調査を行うことができた。
- 海洋ごみの調査は、継続的に研究を行うことにより、地域の自然保護活動へと発展させることができた。
- 世界規模の視野での自然保護や、それを発信する取組が不足していた。

5 プロジェクトの達成状況

(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について

(評価)

学校全体として、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながる取組となった。

(評価した理由)

- ・「知床学」に関する学校設定科目を設置することにより、地域の自然の豊かさを認識し郷土愛の育む教育内容を通して、北海道の一次産業についての理解を深めることができたから。

(2) [評価の観点] 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について

(評価)

地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施したが、成果や課題の共有には至っていない。

(評価した理由)

- ・海洋生物(学校設定科目)における水産教室や創作料理プロジェクトにおいて、町教委、漁協、水産企業と連携し地域の産業に係る学習を行ったが、地域活性化への具体的な道標を立てるまでには至らなかったから。

(3) [評価の観点] 生徒の主体性について

(評価)

生徒は、指示の範囲で主体性を持って取り組むことができている。

(理由)

- ・成果発表会において、聞き手に分かりやすい説明の工夫や助言者からの質問に対する受け答え等を通して、コミュニケーション能力を高めることができたから。

(4) [評価の観点] 地域課題の解決状況について

(評価)

取組により、地域課題の解決につなげることができた。

(理由)

- ・らうす高校生議会において、町長や町議に対して高校生の視点から地域の課題解決に向けた提案を行うことができたから。
- ・新たな水産資源を活用した商品開発について提案し、地域の活性化につなげることができたから。
- ・羅臼海岸に打ち上げられた海洋ごみの調査研究から、地域の自然保護活動へと発展させることができたから。

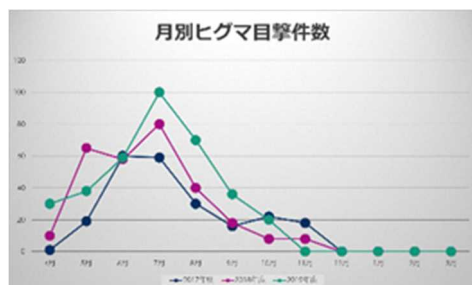
6 今後の取組

- ・今後も関係機関と連携・協働し、取組のさらなる充実を図りたい。
- ・羅臼漁協における新たな水産資源の活用について、創作料理プロジェクトを中心として高校生らしい商品開発を提案していきたい。
- ・らうす高校生議会や地元での研究発表の場を通じて、若年層が働きやすく暮らしやすい町づくりを提案していきたい。

7 参考資料

(1) 中高一貫「クマ学習」

総合的な探究の時間において、第2学年生徒を対象に、知床財団の職員による「クマ学習」を実施した。ヒグマが活発に活動する時期と観光客が羅臼町を訪れる時期が比例している事例から「ヒグマと人間との共存」についてグループディスカッションを行った。生徒は、知床に住む自分たちができること、考えなければならないことを再認識した。



(2) 「らうす高校生議会」

生徒が議員となり、町長や各担当者とこれからの町づくりの方策を審議した。生徒にとっては、町政についての興味・関心をもつきっかけとなった。議場で議論を交わしたことで、今後は自分たちが主体となって町づくりを推進していく立場であることを認識した。また、地域の課題解決に向けて、主体的・対話的に取り組むことを通して、地域の活性化及び人材の育成に貢献することができた。



令和2年10月15日 北海道新聞朝刊

(3) 創作料理プロジェクト「パッケージデザイン」

食を通じた地域の活性化を目指し、地元食堂が考案した羅臼昆布を使ったお菓子について、高校生の視点から助言し、パッケージのデザインを立案した。立案する際は、消費者の満足度をより高めることを目指した。



令和2年7月1日 北海道通信